

画像符号化・映像メディア処理論文特集の発行にあたって



画像符号化・映像メディア処理論文特集編集委員会

委員長 八島 由幸

本特集は、常に新しい観点からのチャレンジが必要とされる画像圧縮符号化や映像メディア処理の研究開発に対して、最新研究成果をいち早く本会会員の皆様にご覧いただきたいという趣旨から2007年に速報性を重視したレター特集として発足した。しかしより詳細なアルゴリズムや深い検討内容の公開を望む投稿者・読者が増加していることから、8回目となる今年度よりフルペーパー投稿も可能な形とした。その結果今回は、レター投稿10編（7編採録）、フルペーパー投稿15編（8編採録）で、投稿件数は全体で昨年より増加、採録件数は昨年同様となった。

本特集は、本学会画像工学研究専門委員会主催の、画像符号化シンポジウム（PCSJ）及び映像メディア処理シンポジウム（IMPS）と連動して企画されている。画像符号化分野では最新国際標準H.265/HEVCが制定され、放送・通信・家電にかかわる企業/組織が本格的な開発フェーズに入っている。量子化の工夫による高画質化や、動き検出の工夫による演算量削減はノウハウの要素もあって論文公表しにくい分野であるが、一方で、HEVCの枠組みを多少崩すことで符号化効率を向上する技術は次世代を睨みつつ肅々と検討が進んでいるように感じる。また、予測+直交変換にとらわれないアプローチは、SNなどでは評価が難しくなかなか論文としてまとめにくいということもあり投

稿が伸びていないが、圧縮率の大幅向上が狙えることから今後大きく期待したい分野と考えられる。一方、映像メディア処理分野における今回の採録論文の内容は、3次元処理・画像復元・視覚処理・画像推薦システムなど例年に比べて多種多様に及んでいる。携帯メディアやSNSの普及、CGM（Consumer Generated Media）の増大、新映像形式（超高精細・3D・CGなど）の拡大を背景として、今後も斬新な観点からの研究アプローチに期待したい。

最後に、今回、貴重な研究成果を投稿頂いた方々、本特集編集委員、査読委員の皆様、そして本企画をサポート頂いた和文論文誌D編集委員会の関係各位に感謝の意を表したい。

やしま よしゆき
八島 由幸（正員） 1981名大・工・電子卒。1983同大大学院工学研究科電子工学専攻修士課程了。同年、日本電信電話公社（現NTT）入社。2004～2007東工大大学院理工学研究科連携教授。NTTサイバースペース研究所画像メディア通信プロジェクト映像符号化技術グループリーダーを経て、2009より千葉工業大学情報科学部教授。これまで主として画像圧縮符号化、画像信号処理、MPEG関連システムの研究開発に従事。2004高柳記念奨励賞、2004及び2008画像符号化シンポジウムフロンティア賞、2008FIT2008船井ベストペーパー賞、2009情報処理学会標準化貢献賞受賞。博士(工学)。情報処理学会、映像情報メディア学会各会員、IEEEシニア会員。

画像符号化・映像メディア処理論文特集編集委員会

委員長	八島 由幸
幹事	市ヶ谷 敦郎・久保 田 彰・井口 和久
委員	加藤 嘉明・川田 亮一・坂東 幸浩・高橋 桂太
	筒口 拳・内藤 整・浜本 隆之・藤井 俊彰